

# 森志げ特集

## 研究会 目的

各国の人文科学研究分野が衰退している今日、本研究会は、未来の文学研究者としての私たちがいかに専門性を活用して文学・文化研究の場を存続させるか、また文学と他のジャンルとのクロスオーバー研究をいかに広げていくかという点に焦点を当てている。さまざまなテーマや特集を通して特定の研究領域・研究対象には縛られないフレキシブルな文化研究の場の確保を目指している。

## 2025年 テーマ

### ◆「森志げ」

昨年度の「漫画・アニメ」研究を展開することを試みたうえで、今年度は改めて文学研究に戻ったのである。「森志げ」という女性作家が今年度の研究対象として選ばれた。樋口一葉や与謝野晶子ほど有名ではないが、日本の近代女性文学を考えるに当たって、家族・家庭の在り様を描いてきた森志げも欠かせない一人であろうと考える。彼女の作品を鑑賞することは、1910（明治40）年代における女性の置かれていた環境・状況を把握するきっかけとなるだけでなく、現代に生きる女性たちにも通底する重要な意義を持つ。

## 2025 年活動

### ◆ 勉強会

瀧本和成・深町博史編『森志げ全作品集』（嵯峨野書院、2022.3）を読む

### ◆ 研究報告会-「森志げ特集」-

毎年5月に開催する共同研究会  
【参加者】研究会メンバー、OB・OG、他大学の院生、海外の研究者

### ◆ 定例会(4回)

「森志げ特集」以外の研究発表や新資料発掘の紹介など

### ◆ 機関誌の発行

『日本近現代文芸研究』第6号（2025年12月）

### ◆ 研究成果-森志げ特集-

- ・鈴木ちよ「雑誌「スバル」と森志げ—自由な芸術の実験場と女性文学の萌芽—」
- ・間瀬可廉「森志げ「荷物」論—一般化される「娘」たち—」
- ・深町博史「森志げ「おはま」論」

### ◆ 研究成果-自由論文-

- ・山口詩織「菊池寛の初期文芸批評における〈芸術の為の芸術〉批判—アナトル・フランスの引用の反復をめぐる—」
- ・HE Shulin「階層・身体・逸脱—谷崎潤一郎「私」における空間と人物の力学—」
- ・種茗「中島敦「盈虚」論」

